

下水道機構の『新技術情報』 第84号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

冬に蓄えた脂肪のコートを脱ぐべく、桜の並木道をウォーキングしてみました(笑)
蕾がかなりふっくらとしていて、中の花びらのピンク色が見え隠れ！開花が楽しみです♪
さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第84号をお届けします。
業務に、Tea Break にどうぞご活用ください。

◆◆◆トピックス◆◆◆

■インフォメーション

- ・3/7(木)に技術委員会を開催しました
- ・3/5(火)に水処理技術共同研究委員会を開催しました

■機構の動き

- ・今週は、3/19(火)に下水道新技術セミナー(大阪会場)を、3/22(金)にリアルタイム雨水情報技術委員会を開催します

■Tea Break

- ・機構卒業を迎えて(研究第一部 吉田成希さんからの投稿です)

■まる子のゆいまーる♪

- ・「老朽化した埋設カルバートの復旧に関する研究報告会 4/18(大阪)、4/24(東京)」
についてのお知らせです！

■国からの情報

- ・3月15日及び3月11日付号外下水道ホットインフォメーション

インフォメーション (最新の話です)

- 3/7(木)に平成24年度第3回技術委員会を機構特別会議室で開催しました。
7テーマが審議され、うち6テーマの研究が終了し、結果の答申・報告がありました。
審議結果の概要を、今回から複数回に分けて紹介します。

【終了テーマ】

- (1)「鋼板製消化タンクに関する共同研究」

本研究は、(株)神鋼環境ソリューションと当機構の共同研究で、鋼板製消化タンクの特徴、導入効果、維持管理性、その他設計諸元等の技術的知見を取りまとめ、計画設計等を行う上での技術マニュアルを作成することを目的とするものです。技術委員会では、建設費、建設工期、維持管理性、消化性能、保温性能、防食塗装等の技術マニュアル(案)の内容が審議され、所定の成果が確認されました。

(2)「トータルエネルギーシステムとしての汚泥減量化技術に関する共同研究」

本研究は、(株)神鋼環境ソリューションと当機構の共同研究です。技術委員会では、終了案件として技術紹介や自治体が導入検討する際に必要な事項、またケーススタディによる費用やエネルギーの削減効果等の導入効果など、技術マニュアル(案)の内容が審議され、所定の成果が確認されました。

(3)「回転ドラム型濃縮機の性能に関する共同研究」

本研究は、(株)タクマと当機構の共同研究で、回転ドラム型濃縮機の性能を評価し、計画や設計・維持管理に関する効果も検討して、技術マニュアルとしてまとめることを目的とするものです。技術委員会では、終了案件として余剰汚泥を対象とした濃縮機の性能確認や混合生汚泥を対象とした大容量処理の効果確認など、技術マニュアル(案)の内容が審議され、所定の成果が確認されました。

●3/5(火)に平成24年度第2回水処理技術共同研究委員会開催しました

議題は、継続案件であります「酸化剤を用いた余剰汚泥削減技術(標準活性汚泥法)に関する共同研究」になります。本研究は、大分市、日鉄住金環境(株)および扶桑建設工業(株)と当機構の計4者による管理者参加型の共同研究として実施しております。

今回の委員会では、汚泥減量効果、処理水質、既存の水処理設備や汚泥処理設備への影響、コスト削減効果等について報告を行い、データの整理方法、評価方法等についてご意見を頂きました。

次回の委員会では、今回のご意見を反映した新たなデータ等について、ご意見を頂く予定をしております。

なお、本研究は、平成25年度まで実証試験を実施し、技術マニュアルとして取りまとめる予定をしております。

。。。。

機構の動き (機構の行事予定です)

。。。。

◎3/19(火) 第57回 下水道新技術セミナー <大阪会場>

場所：大阪科学技術センター

テーマ：下水道事業における情報通信技術(ICT)の活用と下水道ストックマネジメントの方向性

◎3/22(金) 平成24年度第2回 リアルタイム雨水情報技術委員会

場所：下水道機構 8 階 特別会議室

議題：各委員会の調査研究報告についての審議等

●3/26(火) 第5 審査証明委員会

●3/28(木) 平成 24 年度第 4 回 津波シミュレーションモデル利活用検討委員会

。○○。

Tea Break (機構職員の感じるまま)

。○○。

●機構卒業を迎えて(研究第一部 吉田成希さんからの投稿です)

今月をもちまして機構を卒業することとなりました研究第一部の吉田成希です。

私が機構に入ったときは、東日本大震災による地震津波に関する現地調査や対策等の対応で多くの職員がバタバタとされているときでした。私はそれほど地震津波の業務に関わっておりませんでした。それまでと全く異なった機構の業務に慣れようと必死でした。自らが様々な業務をこなしていく中で、営業活動や各業務の作業・打合せ等の管理をしなければならぬので、ずっとバタバタと業務をしてまいりました。ようやく機構業務に慣れてきたと思えば、長いはずの2年がもうすぐ経とうとしています。機構に参ってから、出向元では会えないような人々と出会い、一緒に仕事をする機会があり、ご指導いただき、またご迷惑をおかけすることがあったと思いますが、とてもよい経験をさせていただきました。そのおかげで、一回りも二回りも大きく成長できと思います。私事ですが、その成長は自身の身体をも大きく成長させてくれたようで、関西に帰ってからは日々摂生に努めたいと思います。今後とも皆様と一緒に何か取り組みができれば幸いです。

どうもありがとうございました。

。○○。

まる子の結まーる (皆様との交流の場です)

。○○。

●4/18(大阪)、4/24(東京)に「老朽化した埋設カルバートの復旧に関する研究報告会」(既設および更生管きょ力学挙動と設計に関する技術資料の技術説明会)の開催について

公益社団法人地盤工学会が主催する「老朽化した埋設カルバートの復旧に関する研究報告会」が4月18日(大阪)、24日(東京)に開催されます。「既設および更生管きょ力学挙動と設計に関する技術資料」を説明するもので、当機構OBの三品 文雄(エースコンサルタント(株))さんが講師として説明されます。詳しくは、こちら

http://www.jiban.or.jp/index.php?option=com_content&view=article&id=1395&Itemid=78

*/**/*

皆さまからの情報提供をお待ちしております！

提供はこちらまで→



※テキストは原則 400 字以内。写真等は A 4 版にして原則 2 ページ以内。

なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

*/**/*

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。



下水道ホットインフォメーション（2013. 3. 15 付国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局下水道部下水道事業課企画専門官 吉澤正宏



3月1日号で、国連「水と衛生に関する諮問委員会」の名誉総裁でいらっしゃる皇太子殿下が、ニューヨークの国連本部で開催される「水と災害に関する特別会合」で基調講演をなされることをお伝えしましたが、この基調講演の内容について、宮内庁のホームページに掲載されましたので、お知らせします。

<http://www.kunaicho.go.jp/okotoba/02/koen/koen-h25az-kokuren.html>

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

- 効果的な広報活動を実践する「土木広報アクションプラン」(中間報告)
 - －「伝える」から「伝わる」へ－ を取りまとめました【土木学会】
- 「しが水環境ビジネスキックオフセミナー」を開催します。【滋賀県】
- GKP 広報大賞の応募締切迫る！【GKP（下水道広報プラットフォーム）】

=====

●効果的な広報活動を実践する「土木広報アクションプラン」(中間報告)

－「伝える」から「伝わる」へ－ を取りまとめました【土木学会】

土木学会では、社会コミュニケーション委員会の下に「土木広報アクションプラン小委員会」を設置し、効果的な土木広報のあり方について検討してきました。このたび「土木広報アクションプラン」の中間報告を取りまとめました。長期にわたり減少を続けている「公共事業」は、その内容如何にかかわらず、負のイメージで捉えられることが多く、社会資本の果たす役割が社会に正確に伝わっていないことが課題となっています。2011年の東日本大震災においても、国土交通省と地元建設業が連携し道路や港湾を短期間で啓開させた「くしの歯作戦」は、人命救助や支援物資の早期輸送に大いに貢献したものの、世間にほとんど知られておらず、発信力不足が指摘されています。

土木広報アクションプランは、こうした状況を少しでも改善し、社会資本の役割や必要性を改めて社会に伝えるための情報発信の手法を提案するものです。具体的には、過去の失敗事例や他業界の成功事例の検証、年齢・性別といった広報対象者の分析などを行い、一方的に「伝える」ことに主眼を置いた広報を、情報の受け手側に立ち「伝わる」ことを意識した広報にするための手段や手法を取りまとめております。このプランをもとに関係者が一丸となって情報発信力を向上させることを目指します。

本報告書は以下の土木学会 HP からダウンロード可能です。

<http://committees.jsce.or.jp/publicity01/node/13>

・本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人 土木学会 土木広報アクションプラン小委員会事務局

福田敬大（ふくだゆきひろ） TEL：03-4519-5005

（(財)国土技術研究センター 技術・調達政策グループ所属）

●「しが水環境ビジネスキックオフセミナー」を開催します。【滋賀県】

滋賀県では、水環境関連の産業・研究機関の集積やこれまでの琵琶湖での水環境保全の取組を活かした水環境ビジネスの展開を図るため、官民連携のプラットフォーム「しが水環境ビジネス推進フォーラム」を設立し、3月25日に「しが水環境ビジネスキックオフセミナー」を当県商工政策課主催で開催いたします。

本セミナーでは、フォーラム設立を記念して、水環境の総合エンジニアリング企業の取組や、官民連携による水ビジネスの海外展開事例の紹介、フォーラムでの活動内容の説明に加えて、水環境ビジネスを展開する参加企業の交流促進に向けた交流会を実施します。

セミナーのプログラムの一つには、「中国・湖南省での下水処理技術支援とビジネス展開について」と題した当県下水道課による講演が含まれています。当県下水道課では、JICA「草の根協力事業」を利用して湖南省株洲市で計画されている下水污泥処理施設の建設、運営管理に関して、県内の企業、研究機関と協力した技術援助を行い、滋賀県の汚水処理技術の継承発展と県内企業の海外展開の足掛かりを作ることを目指しており、ここでご紹介いたします。

セミナーの場所、プログラム等は下記のとおりです。

<http://www.pref.shiga.lg.jp/f/shokokanko/mizukankyobusiness/130325seminar.html>

●GKP 広報大賞の応募締切迫る！【GKP（下水道広報プラットフォーム）】

今年6月に発足したGKP（下水道広報プラットフォーム）の活動の一環として、「GKP 広報大賞」の募集を行っています（ホットインフォメーション1月10日号で既報）。

この締切が3月29日と迫っています！どの団体様でも広報活動はされていると思います。その広報活動をご紹介ください。複数エントリーして下さっている団体様もいらっしゃいますし、ご遠慮は不要です！どしどしご応募ください！！

<http://www.gk-p.jp/taishou.html>

<再掲>

講演会等の開催案内です。既にホットインフォメーションでお知らせしています

が、開催前の講演会等について再掲します。参加申込等については、HP等をご確認ください。

■3月19日に大阪で「下水道新技術セミナー」を開催します

【下水道機構】

(3月19日開催)

http://www.jiwet.jp/school/school-02_057.htm

→3月1日掲載

■「老朽化した埋設カルバートの復旧に関する研究報告会」(既設および更生管きよの力学挙動と設計に関する技術資料の技術説明会)の開催について【地盤工学会】

(4月18日開催)

http://www.jiban.or.jp/index.php?option=com_content&view=article&id=1395&Itemid=78

→2月22日掲載

■研究集会「取付管の今日的課題」の開催について【NP021世紀水倶楽部】

(3月27日開催)

<http://www.21water.jp/j-sched.htm>

→2月8日開催

=====

【参考情報】

◆大震災2年・安心の行方:下 モニュメントになった隆起マンホール 生かせるか液状化の教訓??浦安市 /千葉 <3/8 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/chiba/news/20130308ddlk12040101000c.html>

◆インフラ安全神話の崩壊 <3/8 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/job/biz/column/economy/20130307-0YT8T00666.htm?from=os4>

◆水浄化研究 新ナノカーボン膜利用 信大に拠点 <3/8 信濃毎日新聞>

<http://www.shinmai.co.jp/news/20130308/KT130307ATI090024000.php>

◆国内IT大手、水ビジネス海外攻略 日立、モルディブで運営推進

<3/9 SankeiBiz>

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/130309/bsc1303090501001-n1.htm>

◆昔の湖沼・湿地、地図に 「液状化予測に」 ネット公開 <3/9 朝日新聞>

<http://www.asahi.com/eco/articles/TKY201303070316.html>

◆リン回収プラント 来月本格稼働 鳥取市秋里下水処理場 <3/9 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tottori/news/20130308-0YT8T01597.htm>

◆液状化被害、復興遠く=被災住宅修繕し切れないまま-茨城【震災2年】

<3/9 時事通信>

<http://www.jiji.com/jc/zc?key=%b1%d5%be%f5%b2%bd&k=201303/2013030900173>

◆シンポで復興支援活動を紹介 次世代エネルギーなど解説 <3/10 河北新報社>

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/03/20130310t15009.htm>

◆汚泥乾燥施設を公開 福島の終末処理場来月1日稼働 <3/11 福島民報>

<http://www.minpo.jp/news/detail/201303117109>

発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部
〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F
TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えたい情報をお持ちの方はこちらから → jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから

→ jiwet@jiwet.or.jp

○ニュースレターはこちらから

→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20121130/>

○コラムの正解はこちらから

→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20121130/seikai3.pdf>
